

最新の歯科技工技術に関する講習会Ⅲ

都技 生涯 研修

[重要なお知らせ]

1. コロナウイルス感染拡大防止目的により、参加申し込み者のみが視聴できるYouTubeの限定公開システムを用いたオンラインによるセミナー開催となります（*オンライン環境がない方は会場参加可）。
2. **本研修会は東京都福祉保健局よりの委託事業となっております。**
つきましては受講対象者は以下の方に限ります。
 - ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
 - ② 学生
 - ③ 東京都内在住在勤歯科技工士

[申込期間]

- 東京都歯科技工士会会員・学生（上記①②番） : 10月31日(月) AM10時～
 - 東京都内在住在勤歯科技工士（上記③番） : 11月4日(金) AM10時～
- *受付開始日前のお申し込みは無効といたします。 *定員になり次第締切といたします。

[申込方法]

- ① 参加希望者は右記QRコード、もしくは東京都歯科技工士会のホームページからお申し込みください。
ホームページURL: <https://www.to-ginet.com>
- ② 上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。



申込用QR

[LINE公式アカウント登録のお願い]

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技では試験的にLINE公式アカウントを設けましたのでLINEを使用されている方は、是非とも登録をお願いいたします。



都技LINE公式
アカウントQR

[お問い合わせ]

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F
e-mail: togi-info@to-ginet.com

令和4年度

最新の歯科技工技術に関する講習会Ⅲ

オンラインセミナー

至高のデジタルワークフローを 求めて!

Digital × “匠”

第1部 デジタルワークフローにおける誤差と要因

第2部 技工プロセスのデジタル化とマインドセット



Tokyo master course Science Lecture

講師

【第1部】 藤松 剛 先生
【第2部】 辻 貴裕 先生

【開催日時】

令和4年 11月27日(日)

入室 12:40

開始 13:00 → 終了 17:00

オンラインセミナー

定員 80名 参加費 無料

会場受講

定員 10名 参加費 無料

場所 東京都歯科技工士会 研修室

東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

一般社団法人 東京都歯科技工士会



都技 生涯 研修

至高のデジタルワークフローを求めて！ Digital × “匠”

デジタルワークフローにおける誤差と要因

近年、デジタルツールの進化が急激に進み、我々歯科技工士の日常臨床が大きく変化している。その中で様々な情報が飛び交い、クリニックや技工所においてどのような設備を導入しどのように活用すべきかが明確になっていないと感じる。デジタルはツールとして正しく扱えば技工作業が劇的に変わり、技工士が本来時間をかけて作業すべき工程に時間をかけられるという最高の利点がある。従来の技工作業でも精度を追求するため、各工程において注意点やコツを掴む事で様々な問題を解決してきたと思うが、デジタルでも全く同じである。デジタルワークフローにおいても様々な誤差と要因があり、導入してすぐに何でも上手くいくわけではない。失敗には必ず理由が存在し、その失敗はメーカー頼みではなく実際に臨床で使用する臨床家が検証や工夫をする事で改善するしかない。私自身は現状ではフルデジタルは症例により可能で、基本的には従来の技工とデジタル技工の融合がベストと考えている。デジタルはあくまでツールとして考え、補綴のゴール自体は従来の技工と何も変わらず完成までのプロセスが変化するだけにすぎない。

しかし、デジタル機器も全てにおいて万能ではなく、正しく使用し各機器のポテンシャルを最大限に引き出す必要があり、各機器においての知識をつけないと最大限に発揮することは難しいと考えている。デジタルワークフローにおいて、失敗を少なくするシステム構築の第一歩として、各機器の特色を熟知し、各施設にあった機器導入が必要となる。デジタル機器導入の際に、何を基準に選定していくかというポイントと、各工程に必要なとされる機器についてお伝えしたい。そういったポイントを押さえることで、極力無駄な失敗を少なくする事ができ、デジタルの利点の一つである時間を生むという結果が得られる。

そこで実際の技工作業におけるデジタルワークフローをベースとして、考えられる誤差とその要因について解説する。

■講師略歴

藤松 剛

【ふじまつ たけし】



(株)S.T.F 代表取締役
略歴

- 1998年 新大阪歯科技工士専門学校 専攻科 卒業
- 1998年 (有)CDL 入社
- 2003年 STF Dental Service 開業
- 2012年 (株)S.T.F Kyoto 設立
- 2020年 (株)S.T.F Tokyo 設立
- 2022年 (株)S.T.F Digital Transformation Center 設立

- straumann社 CARES インストラクター
- CM社 Pekkton インストラクター
- 3shape社 LAB Ambassador / Global KOL
- 新大阪歯科技工士専門学校専攻科 非常勤講師

技工プロセスのデジタル化と マインドセット

2000年代に入ってから、歯科技工はすでに模型をCADでスキャンし、レイヤリング用のジルコニアフレーム、チタン製やジルコニア製のカスタムアバットメント、インプラントブリッジフレームをデザインできるようになっており、かつてのアナログ手法から主役を奪っていた。

この頃のデジタル化とは、スキャナーや加工機を導入したり、そのシステムを利用すること自体が「デジタル化した」という意味合いだったように思う。

つまり、デバイス重視であったのに対し、現在はスキャナーやデザインソフトも成熟段階に入り、加工機も小型化され性能も向上したことから、それらを使いこなすためのスキルが求められるコンテンツ重視の段階になったのではないだろうか。

我々、歯科技工士はこれまでのアナログ手技で培った技術や知識を活かしつつ、固定観念にとらわれない柔軟なマインドでそれらをかかずにデジタル手法に置き換えることができるのかを考え、実践していくことでデバイスのスペックを最大限に引き出すスキルを身に着けていく必要があるだろう。

さらに、この数年で口腔内スキャナー（IOS）が加速度的に普及し、フルデジタルプロセスが可能になったことで、われわれ歯科技工士の在り方も変わろうとしている。

今回はラボのデジタル化を進めるための基本的なシステム構築から、デジタルデータを扱うためのクラウド活用法、モデルレスで補綴物製作を成立させるためのティップス、IOSデータによる天然歯ケースとインプラントケースそれぞれのワークフロー、トラブルシューティングなどをご紹介します。Digitizationする診断から補綴設計までのプロセスを解説したい。

■講師略歴

辻 貴裕

【つじ たかひろ】



dental BiOVISION(株) 代表
略歴

- 1991年 旭川歯科学院専門学校 卒業
- 2010年 dental BiOVISION(株)設立 代表取締役就任

所属団体・資格等

- 日本歯科技工学会認定士
- 日本歯科技工士会生涯研修認定講師
- 国際口腔インプラント学会認定歯科技工士
- 日本口腔インプラント学会認定専門歯科技工士
- OJ (Osseointegration Study Club of Japan) 正会員
- 新大阪歯科技工士専門学校 専攻科 非常勤講師
- 3shape Key Opinion Leader